

令和7年度 山口県立大学 看護栄養学部看護学科

学校推薦型選抜 県内高校卒 「総合問題」

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

注意事項

- 1 解答は全て解答用紙に記入してください。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 3 不正行為について
 - ① 不正行為については厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験をとりやめさせ退室させます。
- 4 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題1 以下は、小塩真司氏執筆の「性格とは何か より良く生きるための心理学」の一部である。この文章を読んで、3 ページの設問1～5に答えなさい。

性格を考えることは、私たちの人生に深くかかわってくる問題である。

それは、私たちがどのように成長していくのか、その中で誰とかかわるのかという問題にも関係する。生まれたときから (a) キシツが見られ、環境との組み合わせの中で (b) ジョジョに性格自体が変化しつつ、人生の (c) ケイロが左右されていく可能性がある。私たちが誰かと (d) シンミツな付き合いをし、結婚し、子育てをし、老いていくプロセスの中でも性格はかかわってくる。もちろんその影響は決定的ではないものの、無視できるほど小さいわけでもない。

また、どこに住むかということにも、性格がかかわっていく。私たちは生活している環境から何かしら影響を受け、逆にまた私たちは環境に影響を与えていく。ある性格の人々が特定の地域に集中していくことによって、その地域に独特の (e) フンイキが生まれ、さらにその (e) フンイキが特定の性格の持ち主に (f) ミリョクテキに映るようになる。このような性格の (g) 集積とも言える状況は、その地域の社会的な特徴にも関連していく。

より身近な身の回りの環境についても、性格がかかわってくる。私たちは日々数え切れないほどの (h) センタクをしながら生活しており、その (h) センタクには個性が反映する。それは部屋の使い方から写真の撮り方、インターネット上の振る舞い方にまで及ぶ。

だからこそ、私たちはそこに何があるのかを知りたいと思うようになる。

インターネット上を (i) ケンサクすれば、あらゆる種類の心理検査、心理ゲーム、自己分析ツールへのリンクが手に入る。

学生が就職活動を行う際にも「自己分析」をすることが (j) 促される。就職活動の中で就職適性検査や性格検査を受け、自分の性格についてあれこれと考えさせられるような機会もある。

またそれにとどまらず、小学生の頃から機会あるごとに、自分とはどのような人間であるのか、何に興味をもっているのか、どのような方向に将来の進路を進めていきたいのかを尋ねられる。

「将来は何がしたい?」「進路についてどう考えている?」「どうしてそう考えるの?」……今の時代を生きる子どもたちは、こういったことを考えさせられる機会が本当に多くなっている。

大人の側は、特に何か考えがあってそう尋ねているのだろうか。単に、大人にとって望ましそうな回答を (k) キタイして、子どもに尋ねているだけではないだろうか。

「その職業に就くのはなかなか難しいよね」「それは無理なんじゃないかな」「もっと安定した職業があると思うよ」「苦労するんじゃないかな」……子どもが出してくる「自分はこれがしたい」に対して、私たち大人の側が用意している答えは、どういふものなのだろうか。

自分のことを考えるという行為は、つらいことでもある。

自分の姿を見るのがあまり好きではない人、というのは一定数いる。私自身も昔からそうで、自分の声を録音した音声や、自分の姿が撮られた写真や動画を①と見るのは、どうも苦手である。声についても同じことが言える。自分で自分の声を聞くとときには身体を介した音声を聞いているので、自分の声を普段②に耳にすることはできない。録音した声を聞くと、どうしても違和感を覚えるのはそのためである。

鏡を見たり、カメラがこちらを向いていたり、録音した自分の声を聞いたり、自分の姿を録画した映像を見たりすると、自分自身に意識が向かう。すると、理想的な自分の姿と現実的な自分の姿の両方を認識する機会が生じる。そして、その理想と現実のズレの大きさに直面することになる。すると、落ち込んだり (l) 自己嫌悪感を抱いたりすることにつながりやすい。

(A) 自己分析を行う際にも、これと同じことが生じる。自己分析は否応なく、自分に向き合わなければならない。そして自己分析をすることは、自分の長所を認識するだけでなく、普段は気にもとめていない、いやむしろあえて気にしていない短所にも目を向けなければならない機会となる。自己分析をすると気分が落ち込む人が一定数いるのは、当たり前の現象だと言える。

(中略)

(B) どのような性格特性であっても、多面的な特徴をもっている。

たとえばある性格は、他の性格特性や心理的状态との組み合わせによって、まったく違う結果を生み出す可能性を秘めている。たとえば、ビッグ・ファイブ^(B)のうち勤勉性は、学業成績にも仕事のパフォーマンスにも、寿命の長さにも関連する、それをもっただけで何でもできそうな性格特性に思える。しかし、勤勉性の高さが神経症傾向の高さと共存すると、それは完全主義につながる。完全主義とは、高い目標を抱いてその目標を達成しようと試み、少しでも目標を達成できないとすべてが失敗だと考える傾向のことを指す。

そして、その高い目標が常に達成できるわけではないという点に、完全主義の大きな問題がある。周りの人々が自分の高い目標の達成をサポートしてくれるような恵まれた環境に身を置いていれば、周りの人々は大変だろうが本人に大きな問題は生じないだろう。しかし、時に高い目標は現実離れしたものとなり、また実際の生活の中では不確実な要素も多くなるため、どれだけ達成しようとしてもできない場合がある。しかし完全主義はそれを許さず、他の人から見たらそれほど大きな失敗に見えないにもかかわらず、本人はそれをすべて失敗だとみなす傾向がある。すると、落ち込みや抑うつ、(l) 自己嫌悪といったあまり好ましくない結果へとつながっていく。

(中略)

いずれにしても、単独で考えれば好ましい性格特性である勤勉性も、他の性格特性や状況との兼ね合い (m) 次第で、好ましくない結果へとつながってしまうのである。

だから、たとえ自己分析によって自分の性格を知ったとしても、それをうまく活かしていくことが大切である。

出典：小塩真司著「性格とは何か より良く生きるための心理学」，中央公論新社，2020，205-211 頁，一部改変

出題者注) ビッグ・ファイブ：人間の性格全体を過不足なく表現できる「外向性」「神経症傾向」「開放性」「協調性」「勤勉性」の5つの次元（要素）のこと。

設問1 下線部 (a) ～ (m) のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

設問2 文中の ① に入る言葉として最も適切なものを1つ選びなさい。

- (ア) きよろきよろ
- (イ) ぎりぎり
- (ウ) ちらちら
- (エ) まずまず
- (オ) まじまじ

設問3 「主観的」という意味と反対の意味の言葉として文中の ② に入る最も適切なものを3文字で書きなさい。

設問4 下線部 (A) で述べられている「自己分析」とはどのようなことですか。文章中の言葉を用いて80字以内で述べなさい。

設問5 下線部 (B) の「どのような性格特性であっても、多面的な特徴をもっている」という筆者の主張に対する自分の意見や考えを400字以内で述べなさい。

問題2 次の英文を読んで、設問1～5を解答しなさい。

Only 10% of Japanese people think that men who stay home and take care of children are unmanly, the lowest among 31 countries surveyed in a report by French public opinion research firm Ipsos S.A.

The ratio is down 5 percentage points from five years ago, indicating a positive change in men's participation in child care in Japan, where the persistence of gender inequality has been pointed out internationally. ① () the other hand, Japan had the lowest proportion of respondents, at 24%, who felt that the national government's efforts to close the gender gap are sufficient. While gender awareness is moving toward equality, the result showed that national measures are not keeping pace.

The survey, conducted from December 2023 to January 2024, targeted a total of about 24,000 people from 31 countries in Europe, North America, Asia, Oceania and other regions, ② mostly online. In Japan, responses were received from some 2,000 people.

The respondents were asked to choose from five options regarding whether "a man who stays home to look after his children is less of a man": somewhat or strongly agree, somewhat or strongly disagree, and "don't know." In Japan, 10% somewhat or strongly agreed. The corresponding figures in Ireland and the U.S. were 14% each, followed by Chile and Poland at 13% each and Canada and Argentina at 11% each. The highest percentage was South Korea's 74%, followed by India at 62% and China at 32% -- all in Asia. The overall average was 22%, up slightly from 18% in the 2019 survey.

By gender, Japanese men and women both ranked the lowest in terms of the percentage of those who agreed with the statement, at 12% and 7%, respectively, indicating changing values among both sexes.

In the World Economic Forum's 2023 Global Gender Gap Report, Japan ranked 125th of 146 countries, a record low, and measures to improve the disparities are being sought internationally. In the latest survey, only 24% of Japanese agreed that "When it comes to giving women equal rights with men, things have gone far enough in my country." While this was an increase of 5 percentage points from five years ago, it was the lowest among the countries surveyed, as was the case in the 2019 survey.

③ The latest survey also asked if respondents agree with the statement, "Women won't be able to achieve equality in my country unless men also take action to protect women's rights." In Japan 57% agreed, third from the bottom among the 31 countries, but up 10 points from 2019. The increase was the largest in Japan among comparable countries, showing a move toward a notably heightened awareness of the need for men to take action to close the gender gap.

Ipsos K.K., the Japanese arm of the company, explained, ④ "It is interesting to see positive changes in men's participation in child care in Japan, where the need to close the gender gap has been pointed out." It then analyzed, "With the public awareness of gender transformed and the foundation for change in place, the change may be further accelerated if sufficient measures are taken by the government."

出典 : By Tomofumi Inagaki, The Mainichi, June 12, 2024 一部改変
<https://mainichi.jp/english/articles/20240611/p2a/00m/0na/024000c> (2024 年 7 月 10 日アクセス)

注) unmanly 男らしくない, survey 調査, public opinion 世論, firm 会社
Ipsos S.A. イプソス S.A., persistence 根強さ, proportion 割合
respondent 回答者, measures 対策, less of a man 男らしくない
somewhat 少し・やや, the corresponding figures 対応する数値
the World Economic Forum's 2023 世界経済フォーラム 2023 版
Global Gender Gap Report 世界男女格差報告書, disparities 格差
awareness 意識, gender gap 男女格差, Ipsos K.K. イプソス株式会社
the Japanese arm 日本法人, accelerate 加速する

設問 1 下線部①の()の中に次の前置詞の中から最も適切なものを選び、解答欄へ記入しなさい。

And But Because However On While In At

設問 2 下線部②の単語と最も異なる意味の単語を次の中から選び、解答欄に記入しなさい。

mainly largely chiefly partly

設問 3 下線部③の質問について、その調査の結果のうち日本人についての結果を、日本語で解答欄に記述しなさい。

設問 4 下線部④について、日本語訳を解答欄に記述しなさい。

設問 5 著者は、日本のジェンダー（男女）格差を改善するためには、どうすればよいと主張しているか。日本語で解答欄に記述しなさい。

令和7年度 山口県立大学 看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜 県内高校枠「総合問題」 出題の意図

【国語】

国語の問題文は、小塩真司氏執筆の「性格とは何か より良く生きるための心理学」の一部である。まず、国語の基礎的な学力として漢字問題等や慣用句問題を通して言葉の（知識）を問うものであり、問題文を読み取り（読解力）、「自己分析がどのようなことであるか」「どのような性格特性であっても、多面的な特徴をもっている」という筆者の主張を理解できている（理解力）かどうかを問う。また、文章を理解し、自分の考えをまとめて表現する（論理的思考力、文章表現能力）ことを問うものである。

【英語】

英語の問題文は、「Japan has Lowest ratio of those who think men looking after kids is unmanly among 31 nations, The Mainichi, June 12, 2024」からの出題である。ある程度の分量で明確な論旨と構成を持った英文を読み、その要点を読み取ることができるかどうかを評価する問題である。受験生には、高等学校における英語の授業内容を適切に習得し、英語文献を読み、理解するための基本的な英語の力が備わっているかを問うものである。

設問1は前置詞に関する基礎知識（AP《知識・技能》に関連）を評価する。

設問2は英単語とその対となる意味を理解する語彙力（AP《知識》に関連）を評価する。

設問3は文章を正確に読み取る読解力（AP《技能》と関連）および語彙力（AP《知識》に関連）を評価する。

設問4は英文を日本語に訳す表現力（AP《表現力》に関連）および語彙力（AP《知識》に関連）を評価する。

設問5は文章を正確に読み取る読解力（AP《技能》と関連）および英文を日本語に訳す表現力（AP《表現力》に関連）を評価する。

受験番号	
------	--

◎

◎

◎

◎

(3枚の1)

問題1

設問1

(a)	気質	(b)	徐々	(c)	経路	(d)	親密
(e)	雰囲気	(f)	魅力的	(g)	しゅうせき	(h)	選択
(i)	検索	(j)	うなが	(k)	期待	(l)	じこけんお
(m)	しだい						

設問2

(オ)

設問3

客観的

設問4 → 横書き

自	己	分	析	と	は	自	分	に	向	き	合	い	、	自	分	の	長	所	を
認	識	す	る	だ	け	で	な	く	、	普	段	は	気	に	も	と	め	て	い
な	い	、	い	や	む	し	ろ	あ	え	て	気	に	し	て	い	な	い	短	所
に	も	目	を	向	け	る	こ	と	で	あ	る	。							

80字

設問 5 → 横書き

[illegible]



(3枚の3)

問題2

設問1

On

設問2

Partly

設問3

「そう思う」と回答した日本人は57%で31カ国中、下から3番目だったが、19年の調査と比べて10ポイント増だった。

設問4

ジェンダー（男女）格差の是正が指摘されている日本で、男性の育児参加に対するポジティブな変化が見られるのは興味深い。

設問5

「政府が十分な対策を講じれば、変化（男性の育児参加に対するポジティブな変化）はさらに加速していくのではないかと主張している。